



# 2年学年だより

発行日:令和6年2月29日(木)

発行者:横浜市立南高等学校附属中学校

学校長:遠藤 広樹 NO.10

## 令和5年度の有終の美を求めて

今月は南高校附属中学校13期生適性検査、南高校71期生高校入試が実施されました。南高校および附属中学校にも新しい春の足音が聞こえてきます。令和5年度の附属中学校の生活も残りひと月となりました。今年度の総仕上げをしている各学年の様子をお伝えします。

保護者の皆さま、1年間さまざまな場面でお力添えいただきありがとうございました。令和5年度も残りひと月、よろしくお願いたします。

### 自分の心の声に耳を澄まそう

3年学年主任 朝比奈 康江

♪ 何のために生まれて 何をして生きるのか 答えられないなんて そんなのはいやだ

何が君のしあわせ 何をして喜ぶ わからないままおわる そんなのはいやだ ♪

みなさんも一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。やなせたかしさん作詞の「アンパンマンのマーチ」の一節です。大げさかも知れませんが、生きる目的がはっきりしていれば、たとえ八方ふさがりに思える状況の中でも、「はい」と「いいえ」を言い違えることはありません。

卒業生たちから、中学生や高校生のとときの興味が将来の仕事の選択につながっているという話をよく聞きます。今はまだ将来のことはわからないという人も、何がしたいのか意識して、自分の気持ちに注意深く向き合い、心の声に耳を澄ますことで、気づくことがきっとあると思います。

### 自立した人に。

2年学年主任 三井 俊文

「自立」。みなさんが考えるこの「自立」という言葉は、どのような意味の言葉でしょうか。辞書で引くと、「他の力をかりることなく、また他に従属することなしに存続すること。」と書いてありました。私もそう思っていましたし、みなさんも大体似たような意味で捉えているかなと思います。以前、ある記事でこんな発言を読みました。「自立とは、依存先を増やしていくことです。」頼れるものを減らして自分の力だけ立ていくことが「自立」と思われがちだが、むしろ反対に頼れるもの(場所、人など)を増やしていくことが「自立」ということです。私自身、この言葉にとっても感銘を受けましたし、その通りだなと思いました。頼ることなく、支えてもらうことなく生きるのではなく、頼ったり支えてもらったりして生きることこそが「自立」なのです。そしてそれは支えてもらう側だけでなく、支える側になることも意味するものだと思います。2年間に共に過ごしてきて、11期のみなさんは周りを支えられる人たちがすごく多いと感じます。これからもお互いに依存し合える関係をたくさん増やしていき、「自立」に向かっていってほしいなと思います。

### 人生は選択の連続

1年学年主任 酒井 貴史

人生は選択の連続…こんな言葉を聞いたことがあるでしょうか。「よし、決めるぞ」と思って選択することもあれば、気にも留めずに選択することもあります。何の選択をしたか、忘れてしまうような選択もあることでしょうか。ところで、みなさんは1年前の今頃、どんな選択をしたでしょうか。…この学校へ入学することを「選択」したはずで。

そんなみなさんの中学生としての3年間のうち、1年が過ぎそうとしています。「〇〇するんだよ」と言われて選択してきたことから、少しずつ自分で「〇〇するぞ」と思って選択することも増えてきたのではないのでしょうか。選択一つが未来を変える、という大げさかも知れませんが、その場その時に考えられる最善の選択を「自分で」できる人になっていって欲しいです。きっと、そんな選択がみなさんを成長させ、お互いに良い影響を与え合ってくれる集団になってくれることでしょう。期待しています。

# 高く美しいタワーをつくろう

昨年の10月から行われている道徳リレー。普段は各クラスの担任が道徳の授業を受け持っていますが、この期間は学年の先生が交互に授業を担当しています。さらに今年度は、中澤校長代理に「高く美しいタワーをつくろう」とい授業を行っていただきました。グループに分かれ、合意形成を図りながらタワーをつくっていきましたね。思ったように「高く美しい」タワーはつくれたでしょうか。またグループでタワーをつくることを通して、様々な気づきは得られたでしょうか。以下授業における振り返りです。



● 同じことをしているのに人によって作品が全く違ってとても面白かった。高さだけでなく形がきれいだったり、他にはない形だったりするなど、様々な工夫が見られた。班で知恵を出し合って、構成を考えたり、共同作業をしたりするのは楽しかったため、今後の生活でも積極的に行っていきたい。

● ただ紙でタワーをつくるだけでも、すごく難しい作業だなと思いました。しかし、グループの人と話し合い、様々なアイデアを出し合うことで、独自のタワーを創ることができました。高さではなく、花束をイメージし、芸術的な作品に仕

上げることができました。

- 他の人と考えが全く一緒！ということはほとんどないので、まずはお互いの考えを理解することが大切だと思った。
- 協力する時はどうしてもリーダー的な人が必要だけど、一人で勝手に突き進むのもよくない。だからその塩梅が難しいと感じた。
- 個人だとそれぞれの特徴が出やすいため、高いタワーを作るための価値観は違うのだと感じた。グループ内での意思疎通がとれていると、協力してまとまったコンセプトに仕上がると思う。
- 1枚の紙と1つのはさみだけでタワーを高くするのは、工夫が必要で、考えるのが楽しかったです。工夫が人によって様々で、間違えは一つもないんだと改めて気づきました。



● ただの紙の状態だったら自立できないが、折ったり丸めたりすることで立てることができたので、工夫すればいろんなこともできると分かった。またグループの方が意見が多く出たので、協力は大事だと思った。

● 皆、高いタワーを作ろうとしているのに、一つも同じものがないのは面白いし、すごいなと思いました。タワーに個性が出ているようにも感じました。

● 今回特に感じたのは、土台が大事だということ。それを人に置き換えて考えたときに、クラスでピアノをひける人や運動が上手な人の土台には必ず応援する人や歌う人がいると感じた。そのため逆に自分が頑張れるときは、それらの人たちを大切にしようと思った。



# 日テレ「情報の種の見つけ方」



1組 ■■■■■：来年には本格的な論文を書き始めるので、情報集めはこれから重要だと思う。ニュースや新聞、インターネットとか、いろいろな手段があるけど、情報集めで大切なのは適切な情報だけを抜き取って調べることだと思っていた。しかし、講師の方の情報の見つけ方の講座を聞き、厳選するより先に多量の情報、つまりたくさんの情報を仕入れることがまず行なうべきことなの分かった。いろいろな側面を知り、面白そう、楽しんでもらえそうなものを選ぶ、それができて、良い情報を届けられているんだなと思った。物事にはたくさんの面があって、一見見えなさそうな部分が面白かったりする。そのことを頭に入れて「スマホ」について調べた。私の班は、歩きスマホについて調べたのだが、一口に「歩きスマホ」といっても何が危ないのかと言うと色々あった。人との衝突、物にぶつかる、車や自転車と

の接触など、本当にたくさんあった。この中のどれでも共通していたことは「スマホに集中して周りが見えない」ということだったので、そこにフォーカスして、でもそれだけだとインパクトがないので、どれくらい見えないのか実際に当たって調べようと思った。このように色々な情報を集めた訳だが、やっていく中で、物事の見えづらい裏サイドを見つけることの楽しさを学んだ。

2組 ■■■■■：「着目は1回で済むわけがない」というキーワードを聞いて、テレビ局の人達の情報収集への熱量が感じられた。キーワードが3つほど出てきたが、どれも情報を集める事に関するものだった。多方向から情報を集めることが大切だということは、手段と内容どちらにも言えることだ、ということが分かった。どうしてもインターネットに頼ってしまうことが多いので、図書館に見に行く労力はおしまないようにしたい。また、当事者の人に聞くことが大切だというお話は、人間の記憶が1番残るといって大事だと分かった。



2組 ■■■■■：私の班では、「未来のスマホはどうなるのか」というテーマで調べた。

班で調べる方が、個人で調べるよりも様々な見方ができるので着眼点をたくさん発見できた。結果、未来のスマホはスマートグラスに変わる？や、街中がスマホ化し、スマホがいなくなる？などが分かった。そしてこれら（調べてわかったこと）を調査するために、複数のスマホ会社に取材したり、スマホを使っている人にスマホの不便なところやもっとこうしてほしい所を聞く、などの案が出た。今年の論文の市食るときは、取材をするという考えにまで至らなかったから、「調べる」の範囲が自分の中で広がった気がした。



3組 ■■■■■：1つの番組をつくるだけでも、正確な情報を色んなところから集めたり、視聴者が欲しい情報を取捨選択して伝えてくれているのだなと感動しました。また、ニュース等でやっている10分程度の特集でも多くの人やお金が動いたり、たくさんの情報を集めて私たち視聴者を飽きさせないようにしてくれているのだなということが分かって、今行っているEGGの論文作成でも、読んでくれる人が飽きないように題名や文の構成を工夫しようと思いました。

3組 ■■■■■：7時間目の班学習で、「スマホ」というすごく身近なものを題材に調べ物を行い、実際にまとめてみると、テレビ局の仕事の大変さが改めて分かった。

4人でアイデアを出し合って題材を決める時に、特集を見る人の視点に立って、どんなテーマだったら面白いかを考えて題材を考えることができた。今回の学習では「スマホ」という大テーマが決まっていたが、本来はこれをフリーでやるわけだから、取材というのは本当に難しいものだなと感じた。

4組 ■■■■■：今回の講義で、人の興味を引く情報を見つけるポイントについて学ぶことができました。現在はインターネットがあるため、一定の情報を越えた深い情報でないと、人の興味を引くことが難しいのだと思いました。動画で実際に、人の興味を引く情報の集め方を学ぶことができました。これからの調べ学習などに役立てていこうと思いました。私はこの学習をするまでは、テーマを1つ決めたら、終わりまでそのテーマを行うべきだと考えていました。しかし、より輝く情報のタネを見つけるために、テーマをかえて良いと知り、驚きました。



4組 ■■■■■：私が普段何気なく見ていたテレビは、その数分、数十分、数時間にたくさんの人の努力が隠れていることがわかり、テレビが見られる当たり前に感謝するとともに、テレビ制作に関わる人たちをととても尊敬しました。テレビを見るとき、「こんな工夫がされているな」などと考えるようになり、テレビを見るとき視点が変わりました。「いかに調べられるか」「アナログ（インタビュー等）を大切に」「わかりやすく、簡潔に」この3つを重点に置き、情報収集・卒論執筆をしていこうと思います。